

(別紙様式)

令和3年度 ICT活用実践研究 実績報告書

| | | | | |
|-----------------------|--|----|------------------|------------------|
| 所属校園 | 附属釧路義務教育学校後期課程 | 形態 | ■ 個人 □ 団体・グループ | |
| 研究代表者 (申請者) | 氏 名 | | 職名 | 備考(分担等) |
| | 齊藤 貴文 | | 教諭 | |
| 研究分担者 (団体・グループの場合) | | | | |
| 研究題目 | 音楽科におけるICTを活用した鑑賞領域における授業デザイン ～一人一台端末でできる魅力ある鑑賞授業の構築～ | | | |
| 経 費 支 出 内 訳 | | | | |
| 事項 | 単価 [円] | 員数 | 金額 [円] (消費税込) | 備考 (内訳・特記事項等) |
| ・譜面台 | 7,000 | 3 | 21,000 | 不足分は附属学校運営費で支出 |
| | | 合計 | 21,000 | 配分額20,000円 |

【研究実績の概要, 得られた成果・効果等】

音楽科におけるICTを活用した鑑賞領域における授業デザイン

～一人一台端末でできる魅力ある鑑賞授業の構築～

北海道教育大学附属釧路義務教育学校

齊藤 貴文

1. 研究の動機と目的

本研究は、音楽科における ICT を活用した、音楽科ならではの魅力ある授業デザイン、特に鑑賞領域における授業デザインを提案するものである。「令和の時代における新たな学校教育の展開」の基盤となる GIGA スクール構想の実現に向けて、音楽科では今年度も ICT、特にタブレット端末を活用した主体的・対話的で深い学びを実現するための魅力ある授業デザインを実践・提案してきた。本校音楽科がこのように先進的な実践・提案を発信することは、地域における教育の質の向上に貢献することを目的としており、地域の音楽教育の向上の一翼を担うことにつながることを期待している。

2. 研究の方法

本研究では実際に今年度実施した授業の中で、鑑賞の分野における ICT 特にタブレット端末を活用して、主体的・対話的で深い学びを実現する各学年の鑑賞領域の授業デザインについて示していく。

その際、授業デザインの構想から、実践、そして授業後の評価・改善の視点を踏まえ、授業デザインについて考察していく。

また、実施題材は全ての学年を想定し、次の実践を考察することとした。

- | |
|-----------------------------|
| (1) 第7学年 鑑賞 「Asian Music」 |
| (2) 第8学年 鑑賞 「SymphonieNo.5」 |
| (3) 第9学年 鑑賞 「Vltava」 |

3. 授業実践

- (1) 第7学年 鑑賞 「Asian Music」

① 題材名「Asian Music の特徴を捉えよう～アジアの諸民族の音楽の特徴を感じ取ってその魅力を味わおう」

② 題材設定の理由

| |
|--|
| 世界には多様な音楽を知ることへの価値を捉える題材である。自分の知っている世界だけではなく、知らないものへの興味・関心を高め、それが日本の音楽と比較することを通して音楽の共通性や固有性に思いを馳せることは意義深いと考える。 |
|--|

③ 目指す資質・能力

- | |
|--|
| (1) アジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。 |
| (2) 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱などの要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 |
| (3) アジア地域の諸民族の音楽の特徴を捉える活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、そのよさや美しさを味わって聴いている。 |

④ 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| [知] アジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。 | [思] 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 | [態] アジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

⑤ 単元計画 情：情報活用能力育成の視点

| 時 | ○教師の働きかけ △補助発問 | ICT 活用 | 備考 |
|---|---|--|---|
| 1 | <p>○Asia の音楽の特徴にはどんな特徴があると思いますか。 △日本の音楽と似てる・似てないで言えばどちらだと思いますか。</p> <p>○Asia の音楽の特徴を日本の音楽と比較しながら追究していこう。</p> <p>○(写真)を示して、これはどこの国の何の楽器でしょう。</p> <p>○どんな音(音楽)でしょう。鑑賞してみましょう。</p> <p>○日本の音楽との共通することや、異なることにはどんなことがありますか。</p> <p>○日本の楽器(歌)では何に近いですか。</p> <p>○どんな学びがありましたか。リフレクションをしましょう。</p> | <p>資料提示</p> <p>情報収集</p> <p>視聴</p> <p>リフレクション</p> | <p>情：カメラ機能の活用</p> <p>情：インターネットの検索</p> <p>情：ロイロノートカードの振り返り</p> |

⑥ 考察

本題材では、アジア地域の音楽を扱い、その魅力や多様性について日本の音楽と比較しながら捉えることを課題とした。授業ではインターネットを活用し、自らその楽器や音楽について調べ、得た情報を交流し、その特徴を見出していく活動を設定した。そのものを調べることに価値はあるが、日本の音楽と比較することを通して、より一層日本とアジアの結びつきや、その国独自の固有性、音楽の多様性について考えることを期待した。タブレット端末を使うことで、情報収集の幅が大いに広がるとともに、自ら主体的に音楽(情報)にかかわろうとする姿が多数見られたことを大きな成果である。

(2) 第8学年鑑賞 SymphonieNo.5

① 題材名「Symphonie No.5」

② 題材設定の理由

動機、ソナタ形式の視点から音楽の構成への価値を考える題材。また、今流行りの曲もまた昔からある音楽の構成を伴っていることに気づき、音楽を構成の面から捉えることの価値を得られる意義深い題材。

③ 目指す資質・能力

- (1) 動機を元として様々に変化・発展していくソナタ形式の特徴を中核として「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」を聴き、曲想と音楽の構造との関わりをについて理解する。
- (2) 「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の音色、リズム、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、動機を元として様々に変化・発展していくソナタ形式の特徴を捉え、曲や演奏に対する評価とその根拠をもち、音楽における構成の意味を考えながら音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- (3) ソナタ形式に焦点を当てて「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の曲の構成と曲想の変化を捉え、楽曲のよさや価値について考えを深めながら音楽における構成の意味を捉える学習に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。



④ 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| [知] 動機を元として様々に変化・発展していくソナタ形式の特徴を中核とし、「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」を聴き、曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 | [思] 「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の音色、リズム、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、動機をもとにして様々に変化・発展していくソナタ形式の特徴を捉え、曲や演奏に対する評価とその根拠をもち、音楽における構成の意味を考えながら音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 | [態] ソナタ形式に焦点をあて、「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の曲の構成と曲想の変化を捉え、楽曲のよさや価値について考えを深めながら音楽における構成の意味を捉える学習に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |


⑤ 単元計画 情：情報活用能力育成の視点

| 時 | ○教師の働きかけ △補助発問 | ICT 活用 | 備考 |
|---|--|------------------------------------|----------------------------|
| 1 | <p>○(楽曲の一部を聴き)この楽曲はどんな曲ですか。知っていることをカードに書いて提出しましょう。</p> <p>○200年以上前から今なお世界中の人から愛されているこの楽曲の最も優れていると言われているのは次のうちのどれだと思いますか。</p> <p>①オーケストラを使った強弱の変化</p> <p>②優れた構成力</p> <p>③類まれな旋律の美しさ、力強さ</p> <p>○どんな構成になっていると思いますか。</p> <p>△音楽の構成ってどんなことだと思いますか。</p> <p>○そもそも構成を使う言葉にはどんな言葉がありますか。</p> <p>○(A メロ/B メロ/サビなど)こんな言葉は聞いたことありませんか。</p> <p>○これらの言葉を使って音楽を表すとどうなるでしょうか。</p> <p>○身近な曲の構成はどうなっているのでしょうか。「変わった」と思うところで手を上げてください。</p> | <p>資料提示</p> <p>アンケート</p> <p>記録</p> | <p>情：ロイロノートでメモを取りながら視聴</p> |

今日はMake YouHappyやパブリカの構成について考えました。難しいと思ったことは、何に変わったのかを考えることです。雰囲気が変わったのは分かったけど、何が変わったのか悩みました。特に、2回目のAメロやBメロを考えるのが難しかったです。間違えてCメロだと思ってしまうことがありました。驚いたことは、Make YouHappyとパブリカは全然違う曲なのに、構成が全く同じだったことです。他の曲はどうか考えてみたいです。運命は今日聞いた曲とは違って歌詞がないので、難しそうだけど、挑戦してみたいです。

| | | | | |
|---|--|---|---|--|
| | <p>○変わったと思ったのは何が変わりましたか？</p> <p>○構成を意識して聴くとどんなことに気づきますか。</p> <p>○どんな学びがありましたか。リフレクションをしましょう。</p> | リフレクション | | 情：ロイロノートでリフレクション |
| 2 | <p>○今回の楽曲(運命)が人気のある一番の理由は何でしたか。</p> <p>△強弱・構成・旋律のどれでしたか。</p> <p>○この曲の構成を捉えるのは簡単でしたか。</p> <p>○この曲は全部で大きくいくつかに分かれています、一体いくつに分かれていますか。</p> <p>○実は大きく6つに分かれています、それはどのように分かれていますか。みんなで説明していきましょう。</p> <p>○この曲の冒頭はどんな入りでしたか。</p> <p>○そこから雰囲気が変わったと思うところはどこになりますか。変わったと思ったら手を上げてみましょう</p> <p>○どう変わったと言えますか。(前後で)どんな違いがありますか。</p> <p>○最初の部分(提示部)とあとから出てくる部分(再現部)では全く同じですか？</p> <p>△最初と比べるとどこに違いがありますか。</p> <p>○これまでと異なる部分が出てきますが、それはどこからになるのでしょうか。これまでと違う雰囲気になったら手を上げてみましょう。</p> <p>○この楽曲の構成を説明するとしたらどのように説明できますか。ここまでで捉えたことを近くの人と交流してみましょう。</p> <p>○この楽曲の「構成」について捉えたことはどんなことですか。自分の考えをカードにまとめ、提出してください。</p> | <p>資料提示</p> <p>アンケート</p> <p>記録</p> <p>リフレクション</p> |  | <p>情：ロイロノートでメモを取りながら視聴</p> <p>情：ロイロノートでリフレクション</p> |
| 3 | <p>○音楽は動機がもとに作られているといいますが、この楽曲の冒頭はどんなメロディーでしたか。</p> <p>○作曲者はこの動機をこのあとどう使っていくのでしょうか。</p> <p>△動機をどう工夫してどこで使ったのでしょうか。</p> <p>○動機が出てくるってどういうことかわかりますか。</p> <p>○この後この動機はどのように出てくるのでしょうか。楽曲を注意深く、聞こえにくいところも聴いて動機の使い方を捉えましょう。</p> <p>○どんな使い方に気づきましたか。近くの人と捉えたこと</p> | <p>資料提示</p> <p>アンケート</p> <p>メモ</p> |  | 情：ロイロノートでメモを取りながら視聴 |

自分は最初『運命』が10くらいに分かれていると思ったので思ったよりも少なくて驚いた。提示部の第一主題と第二主題の変わり目は結構分かりやすかったけれどそのあとの変わり目がどれも分りにくくて難しかった。第一主題が基本となって進んでいく曲だと思った。最後のコーダの部分でも第一主題が出てきていた。似たメロディが繰り返されていてもう少し楽器を増やしたり調を変えたりしているところがおもしろいと思った。

| | | | |
|--|---|----------------|---|
| <p>を交流してみましよう。</p> <p>○そもそもベートーヴェンをはじめとした作曲者がこのように動機を散りばめ、ソナタ形式など音楽の構成を決めたり、工夫するのはなぜだと思いますか。</p> <p>△自由に音楽を作っていくのはだめなんだろうか。</p> <p>○交響曲第5番ハ短調 第1楽章 の特徴を学習したことを踏まえ特に構成の面から音楽を捉えて自分が考えたことを文章としてカードにまとめ提出しましょう。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>運命の単元を通して学んだことは、構成についてです。今まで私は1番、2番というのが曲の構成だと思っていました。けれど、雰囲気の違いごとに分かれているのだということが分かりました。これから色々な曲を聴くときに、構成を意識して、どのような工夫がされているのか考えてみたいですね。</p> <p>また、運命が何百年も人々の心に残っているのは、構成が優れているからだ分かりました。初めて出てくる動機が形を変えながら何度も繰り返されて、心に残りました。とても良いパーツを組み合わせるだけよりも、同じ動機を繰り返す方が、まとまりがあって良いと思いました。</p> </div> | <p>リフレクション</p> |  <p>情：ロイロノートでリフレクション</p> |
|--|---|----------------|---|

⑥ 考察

本題材のタブレット端末活用のポイントはロイロノートのアンケートやテスト機能の活用である。導入の際に生徒の思考を揺るがす発問をなげかけることはよくあるが、アンケートを用いることは、実施の数字や、自分たちがどのように思っているかを瞬時に可視化するところに利点がある。具体的な数字やグラフ等の自分たちの経験からくる「思い」と「事実」とのズレから学習への関心が高まり、主体的に音楽活動に関わろうとする流れを生み出すことができたと考える。また、授業の終わりにはテスト機能活用した。この学習で学んだことはどのようなことなのかについてかんたんにテスト機能を用いてチェックすることはメタ認知にもつながるとともに、工夫・改善の余地はあるが評価材料としても位置づけることができるのではないかと捉えることができた。

(4) 第9学年鑑賞 Vltava

- ① 題材名『Vltava』～Smetana の残した Soundscape
- ② 題材設定の理由

楽曲の価値を追究する題材。交響詩として示され表題もついているが、その作曲背景を捉え、本当に伝えたかったことは何なのかを追究していく。

③ 目指す資質・能力








- (1) 「ヴルタヴァ」の曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる歴史との関わりについて理解している。
- (2) 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこととの関わりについて考えるとともに、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら曲や演奏に対する評価とその根拠、生活や社会における音楽の意味や役割について考えている。
- (3) 「ヴルタヴァ」の川の姿を捉えたり、作者の意図を考えながら鑑賞する活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、そのよさや美しさを味わって聴いている。


④ 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--|
| [知] 「ヴルタヴァ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解して聴いている。 | [思] 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ | [態] 「ヴルタヴァ」の川の姿を捉えたり、作者の意図を考えながら鑑賞する活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働 |

| | | |
|---|---|---|
| <p>[知] 「ヴルタヴァ」の音楽の特徴とその背景となる歴史との関わりについて理解して聴いている。</p> | <p>しながら、知覚したこととの関わりについて考えるとともに、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら曲や演奏に対する評価とその根拠、生活や社会における音楽の意味や役割について考えている。</p> | <p>的に鑑賞の学習活動に取り組み、そのよさや美しさを味わって聴いている。</p> |
|---|---|---|

⑤ 単元計画 情：情報活用能力育成の視点

| 時 | ○教師の働きかけ △補助発問 | ICT 活用 | 備考 |
|---|--|--|---|
| 1 | <p>○(楽曲の一部を聴き)どんな特徴を捉えましたか。近くの人とシェアしましょう。</p> <p>○作曲者は「川の情景を描いたもの」としていますが、どのように表したと思いますか。</p> <p>○冒頭は○つの源流というタイトルがありますが、いくつの源流でしょうか。音楽を根拠に考えてみましょう。</p> <p>○次の音楽の場面はA, B どちらの場面だと思いますか。</p> <p>○次の音楽の場面は「聖ヨハネの急流」という場面です。作曲者は急流が急流らしくなるようにどのような工夫をしているのでしょうか。できるだけたくさん出してみましょう。</p> <p>○今日の学びをリフレクションしましょう。</p> | <p>資料提示</p> <p>アンケート</p> <p>アンケート</p> <p>メモ</p> <p>リフレクション テスト機能</p> |    <p>情：ロイロノートでリフレクション</p> |
| 2 | <p>○ヴルタヴァの主題はどんな感じがしますか。</p> <p>△どちらかと言えば明るい感じですか、暗い感じですか。</p> <p>○短調のイメージはどんなイメージですか。</p> <p>○(チェコの風景を見て)なぜこのような風景なのに、短調で表したのでしょうか。</p> <p>○独立前のチェコの人たちはどんな思いで過ごしていたと思いますか。</p> <p>○チェコの人たちはどうなりたと思っていたのでしょうか。</p> <p>○最初の主題は短調ですが、2つ目、3つ目の主題の調は、長調と短調のどちらだと思いますか。</p> <p>○この調の変化から作曲者はどんな思いを込めたと考えますか。</p> <p>△短調から長調になるところは、どんな思いが込められていると思いますか。</p> <p>○関連するこの曲を聴いたらどんなことに気づきますか。</p> <p>○この民謡は明るい感じですか、暗い感じでしょうか。</p> | <p>資料提示</p> <p>アンケート</p> <p>アンケート</p> <p>メモ</p> |     |

| | | | | |
|---|---|----------------|---|-------------------------|
| <p>○主題に民謡を混ぜているということはどういう意図が込められていると思いますか。</p> <p>○学習全体を通して考えることはどんなことですか。リフレクションしましょう。</p> | <p>前回の授業でこの曲を聴いた時には、川というものを色々な視点から、表現した曲だと思っていました。ですが今回の授業を通して、前回聴いた時の方が聴いたときの感想だとわかりました。チェコの人にとってこの曲は、独立を願ったものであり希望のある曲だったことに気づきました。作曲者のスメタナはチェコの人たちに寄り添った慰めのような希望のようなものを曲に託したが、素晴らしい感動しました。今回のように、曲が作られたときの背景を知ると、その曲に対してもっと感動が得られ世界が広がるな。と知りました。</p> | <p>リフレクション</p> |  | <p>情：ロイロノートでリフレクション</p> |
|---|---|----------------|---|-------------------------|

⑥ 考察

本題材では作曲者であるスメタナがなぜ美しいチェコの国(川)を表す主題を短調を主たる調としたのかをきっかけとして作曲者が川を通して本当に伝えたかった思いを探ることを課題とした。タブレット端末の活用としてはロイロノートを用いた資料提示やアンケート機能、授業の終わりに学びを振り返るためのリフレクションのカードが中心となった。

資料提示を行いながら、「なぜ？」を引き出して課題に入り、課題を追究する中で適宜アンケート機能を用いて自ら主体的に「選択」する活動を入れることで、停滞しがちな鑑賞の活動がアクティブな活動になることができた。アンケートに関してはもちろんタブレットを使わなくても、挙手やカード掲示、黒板に名前を貼るなど従来から実施されてきている手法ではある。しかし、タブレット端末を使うことによって、時間の短縮、明確な可視化につながりその授業効果は従来よりも上がった感触である。

リフレクションではカード提出を基本とし、毎時間実践してきた。生徒は自分のカードが蓄積されることによって学びを振り返りやすくなるとともに、教師にとってもこれまで紙で提出していた煩雑さがなくなるとともに、生徒の振り返りをすぐに全体で共有することができることや、フィードバックが従来よりもかんたんに素早く行える利点が生まれることとなった。

4. 成果と課題

本研究は、音楽科における ICT を活用した鑑賞領域における授業デザインを示すことにある。今回 ICT 活用について示したものの中心は、本校主力タブレット端末である iPad を用いたもので、中でもロイロノートを使った実践が中心となった。実践を通して、ICT 活用はあくまで授業の効果を促進するための手段であり、検討を重ね、効果的なタイミングで、効果的な活用をすることで、授業が今まで以上にアクティブなものとなることの実感を得ることができた。これは授業自体に動きが生まれることはもちろんであるが、生徒自身が主体的に音楽にかかわろうとする姿勢が多く見られたことが実感できたことが大きな成果である。さらに、教師にとっては活用次第によっては学習評価にも大きく活用することができることは、働き方改革の面からも十分可能性があるのではないかと実感した。また、このことはロイロノートに限ったことではなく、類似のツールやアプリを使うことで代用が可能なが想定でき、それぞれの学校のタブレット端末に合わせた取組が十分可能であり、今後幅広い活用が考えられる。

今年度の本校における授業力向上セミナーの実践を通して、一人一台端末は各学校に配備されているが、授業での活用となるとまだまだ十分ではない声が地域はもちろん全国各地の多くの音楽科教員から届いている。また、環境が整ったとしても、その活用についてはすぐに取り組むことが難しい状況である実態を聞いている。

本研究において、音楽科における ICT を活用した鑑賞領域における授業デザインを示すことは、北海道及び全国における ICT を活用した授業について不安をもつ多くの音楽科教員の要望に答える形となることが十分に期待でき、附属学校園がその先導的な研究に基づく実践の展開や普及、情報発信により地域における教育の質の向上に十分貢献できると考える。